

## 福正寺 念仏石

本願寺派 山梨県大月市真木

善福寺より山間部へ3キロほど行ったところに福正寺はある。近くには真木温泉がある。

『真木山福正寺縁起』によると、福正寺は、もとは福正院薬師道場として、弘法大師密教修練の古跡であった。開基の玄了上人はこの薬師道場に入り、薬師堂別当となった。親鸞聖人毒蛇濟度の後、薬師堂に宿す親鸞聖人に会い、浄土門と聖道門について議論した結果、速やかに浄土門に入ったといわれる。その際、薬師如来を別堂に安置し、聖人より授けられた運慶所作の阿弥陀如来像を本尊とした。

第2世の永讚房乗信は俗姓・佐久太郎といい、笹子川の辺、吉窪（葦窪）に住んでいた。佐久太郎は、笹子川付近で説法している親鸞聖人より、布に顕した名号を授かった。佐久太郎は聖人帰洛後、聖人



福正寺 念仏石

を慕って上洛し門人となり法名をいただいた。聖人没後、真木に帰り玄了上人に奉仕し、2世となった。

この辺りは昔、絹織りが盛んであったようで、周辺の門徒信者により「御服講」というお講が存在していたようである。お講においては毎年、親鸞聖人の御真影に掛ける「裏頭<sup>かとう</sup>」（マフラーのようなもの）を本山に献上していたようである。